

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	理学療法治療学-呼吸	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	昼間部3年	学 期	前期	教室名	901、機能訓練室
担 当 教 員	前田 和成				
実務経験と その関連資格	理学療法士として大学病院をはじめ急性期・慢性期の理学療法、地域にて在宅理学療法に19年間従事。特に呼吸器疾患の理学療法を専門とする。日本呼吸ケア・リハビリテーション学会会員。認定理学療法士(呼吸)、呼吸療法認定士、呼吸器疾患多数の研究実績あり修士取得。				
《授業科目における学習内容》 グループワークを中心に実施する。 呼吸器疾患患者数の動向の理解と理学療法士としての関わり方を説明する。 急性期、慢性期における呼吸理学療法的重要性を理解する。 疾患や病態に応じた評価、治療の組み立て方考える。					
《成績評価の方法と基準》 定期試験を80%、グループワークへの参加、課題解決への取り組み20%					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 病気がみえるvol.4 呼吸器 メディックメディア;第3版					
《授業外における学習方法》 前回までの授業内容については、必ず復習しておくこと。					
《履修に当たっての留意点》 各講義内での課題については、説明できるようになること。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	呼吸理学療法の現状、適応疾患や病態が理解できる	教科書 配布プリント		
	各コマにおける授業予定	呼吸理学療法の現状と課題			
第2回	授業を通じての到達目標	低酸素血症を引き起こすメカニズムが理解できる①	教科書 配布プリント		
	各コマにおける授業予定	肺機能検査とその解釈			
第3回	授業を通じての到達目標	低酸素血症を引き起こすメカニズムが理解できる②	教科書 配布プリント		
	各コマにおける授業予定	血液ガスや採血検査の解釈			
第4回	授業を通じての到達目標	閉塞性換気障害と拘束性換気障害の特徴①	教科書 配布プリント		
	各コマにおける授業予定	換気障害から引き起こされる臨床症状と介入のポイント			
第5回	授業を通じての到達目標	閉塞性換気障害と拘束性換気障害の特徴②	教科書 配布プリント		
	各コマにおける授業予定	換気障害から引き起こされる臨床症状と介入のポイント②			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	呼吸理学療法の評価と実際①	教科書 配布プリント	
	各コマにおける授業予定	模擬患者から評価項目を上げる		
第7回	授業を通じての到達目標	呼吸理学療法の評価と実際②	教科書 配布プリント	
	各コマにおける授業予定	模擬患者の介入方法を検討する		
第8回	授業を通じての到達目標	実際の症例を通して、急性呼吸不全の病態や評価を理解できる①	教科書 配布プリント	
	各コマにおける授業予定	症例を通して急性呼吸不全の病態と評価		
第9回	授業を通じての到達目標	実際の症例を通して、急性呼吸不全の病態や評価を理解できる②	教科書 配布プリント	
	各コマにおける授業予定	症例を通して急性呼吸不全の病態と評価		
第10回	授業を通じての到達目標	実際の症例を通して、急性呼吸不全の病態や評価を理解できる③	教科書 配布プリント	
	各コマにおける授業予定	症例を通して急性呼吸不全の介入方法		
第11回	授業を通じての到達目標	早期離床の目的や必要性、離床に伴う生体反応が理解できる	教科書 配布プリント	
	各コマにおける授業予定	急性期の早期離床と生体反応について		
第12回	授業を通じての到達目標	実際の症例を通して、慢性呼吸不全の病態や評価を理解できる	教科書 配布プリント	
	各コマにおける授業予定	症例を通して慢性呼吸不全の病態と評価		
第13回	授業を通じての到達目標	実際の症例を通して、慢性呼吸不全の病態や評価を理解できる	教科書 配布プリント	
	各コマにおける授業予定	症例を通して慢性呼吸不全の病態と評価		
第14回	授業を通じての到達目標	実技を通して呼吸理学療法の手技を行うことができる	教科書 配布プリント	
	各コマにおける授業予定	呼吸理学療法の実際(触診、視診)		
第15回	授業を通じての到達目標	実技を通して呼吸理学療法の手技を行うことができる②		
	各コマにおける授業予定	呼吸理学療法の実際(呼吸介助)		